

八尾市総合計画審議会 第4回総合戦略部会
議事録

日 時：令和6年11月7日（木）18時30分～20時30分

場 所：八尾市役所本館 6階 研修室

出席者：和田部会長、和泉副部会長、黒木委員、松本委員、吉田委員、木村委員、上木委員、
川野委員、久保委員、谷水委員、古河委員、坂口委員
事務局（関係課含む）

欠席者：高島委員、野村委員、日埜委員

1. 開会

事務局

ただいまより「八尾市総合計画審議会 第4回総合戦略部会」を開催いたします。
本日の司会を務めさせていただきます、政策企画部次長兼政策推進課長の柏原でございます。
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。
本日は夜間の会議にもかかわらずご参加いただき、まことにありがとうございます。

それでは、会議開始にあたりまして、まず資料の確認をさせていただきます。

事前に送付させていただいております資料が、

- ・会議次第
- ・資料1：第2期八尾市総合戦略 後期戦略（素案）
- ・資料2：指標に対する総合戦略部会委員からの意見と対応一覧
- ・資料3：2025年大阪・関西万博を契機とした「観光コンテンツ整備」事業
- ・資料4：2025年大阪・関西万博に向けた取り組み
- ・資料5：今後のスケジュール（予定）
- ・参考資料1：八尾市第6次総合計画後期基本計画（案）について（答申）（10/2案）
- ・参考資料2：八尾市第6次総合計画後期基本計画における施策指標（案）

となっております。また、本日、机上に配布させていただいております資料が、

- ・座席表

となります。

資料はすべてお揃いでしょうか。不足している資料があれば挙手くださいますよう、お願ひいたします。

また、本日の会議の公開についてですが、これまでに引き続き、会議、会議資料、会議録について公開とし、また会議録作成事務の都合上、録音させていただきたいと考えております

ので、ご了承いただきますよう、よろしくお願いいたします。

本日は委員15名のうち、会議開始時点で10名の委員にご参加いただいております、本審議会の開催要件である、委員の過半数の出席を満たしており、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、ここからは、進行を和田部会長にお願いしたいと思います。
和田部会長、よろしくお願いいたします。

2. 第2期八尾市総合戦略 後期戦略（素案）について

和田部会長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第の2. 第2期八尾市総合戦略 後期戦略（素案）について、事務局からご説明をお願いします。

なお、資料1はボリュームが大きいので、委員の皆様にご議論していただきやすいよう、本議事では、基本目標1から3、4から6と二つに分けて審議を進めていきたいと思っております。まずは事務局から、資料1の構成・見方や基本目標1から3の変更点についてご説明をお願いします。

（資料1・2、参考資料1・2を説明）

和田部会長

ただいま、第2期八尾市総合戦略 後期戦略（素案）の構成や基本目標1から3について、事務局より説明がありました。引用元となる総合計画の後期基本計画につきましては、もう一つの専門部会である評価部会において議論し、市に対して答申したところです。ですので、文言や表現の議論ではなく、後期基本計画からのピックアップが適切か、他にピックアップすべき施策は無いか、設定されている指標について、取り組みや効果を計るのに適切か、といったご意見をいただければとのこと。そういった視点でご意見あれば挙手をお願いいたします。

また、事務局の説明において不明な点がありましたら単に質問でも構いませんので、挙手をお願いいたします。

和泉副部会長

資料1のP14に記載の「地区防災計画策定支援にかかる職員の支援地区数」のKPIについて、策定するには職員の支援が必要ということでしょうか。また、支援する職員は専門の資格を持っているのですか。

事務局

特に専門的な資格を持っているわけではありません。地区防災計画策定にあたって、地区の方々だけで策定することは難しいので、策定意向がある地区には職員が支援をしますが、職員の支援があっても策定に至るまでに非常に時間がかかります。そのため、策定済み地区数だけでなく、職員が支援している地区数を新たに KPI として追加し、進捗度がわかるようにしています。

和泉副部長

資料 1 の P14 主な取り組みに記載の「各地域の想いの実現に向けた、地域が主体となったまちづくりへの支援」について、各地域の想いをくみ取ることが重要だと思いますが、この想いを汲み取るための行政としての仕組みやアイデアはありますか？

事務局

八尾市には、小学校区ごとに校区まちづくり協議会という組織があり、この組織が中心となって地域の想いやまちづくりの方向性などをまとめた「わがまち推進計画」を作成しています。この計画の実現に向けて行政がさまざまな支援を行っているところです。

和泉副部長

これからもそういった取組を進めていってほしいと思います。

例えば子育て相談会を開催しても、そこに出席できないほど深刻な悩みを抱えている人がいると思いますが、地域のまちづくりにおいてもそういった集まりに参加しない人の意見も吸い上げる仕組みを検討いただきたいと思います。

和田部長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

黒木委員

資料 1 の P20 に記載の KPI「市内で働く保育士・保育教諭数」について、R5 実績値が 1,684 人、R10 目標値が 1,690 人となっており、6 人の増加をめざすということが控えめな印象を受けます。どのような根拠で目標値を設定したのか教えてください。

事務局

指標については、参考資料 2 をご覧ください。

保育人材の確保は全国的な課題となっている中、八尾市でも人材確保に向けてさまざまな取組を行っています。

この指標自体は、R3年度からスタートした第6次総合計画前期基本計画の施策指標として設定しており、R元年度時点の基準値が1,488人、R6年度目標値を1,692人としており、目標値達成に向けて順調に増加しているのご理解いただけたらと思います。

和田部会長

ありがとうございました。

次に、基本目標4から6の変更点について、事務局からご説明をお願いします。

(資料1・2、参考資料1・2を説明)

和田部会長

ただいま、基本目標4から6に係る部分について事務局より説明がありました。

先ほどと同様に、後期基本計画からのピックアップが適切か、他にピックアップすべき施策は無いか、設定されている指標について、取り組みや効果を計るのに適切か、といったご意見をいただければとのことでした。そういった視点でご意見あれば挙手をお願いいたします。

また、事務局の説明において不明な点がありましたら単に質問でも構いませんので、挙手をお願いいたします。

久保委員

資料2の下から二つ目の項目について、金融機関にはM&Aや事業承継に関する相談が非常に多いですが、行政では把握は難しいと記載されています。

行政として積極的に数字を把握しようという考えはないのでしょうか。

事務局

市内中小企業の相談を受け付ける中小企業サポートセンターという機関がありますが、ここで事業承継に関するご相談があれば行政が支援を行いますし、件数の把握が可能です。中小企業サポートセンター以外での相談件数について把握する術がないのが現状です。

久保委員

こういった課題に対する補助金制度創設など、行政がもっと積極的に関わってもらえたら我々も動きやすくなると感じます。

事務局

ご提案については、担当課と共有を図り今後の取組みに活かしてまいりたいと考えています。

和田部会長

資料2の下から二つ目の記載が委員からは消極的に見えたのではないかと思います。

資料1のP28(2)のKPIに「八尾市立中小企業サポートセンター相談件数」の中に事業継承も含めてさまざまな相談を受けていると思われそうですが、事業継承に関してもうすこし丁寧な記載を検討してもらいたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

上木委員

資料1のP28(2)のKPI「中小企業におけるイノベーション実践数」の数値の測り方と目標値設定について教えてください。

事務局

参考資料2のP4をご覧ください。こちらに指標の定義として「環山楼塾、あきんど起業塾、デザインイノベーション等におけるビジネスプラン数、並びに意欲ある補助金の申請件数及び中小企業サポートセンターによる支援を受けた補助金の申請件数」とあり、これが測定方法となります。

なお、R5実績値に対してR10目標値がそれを下回る設定になっていますが、この間、新型コロナウイルス感染症対応や物価高騰対策として交付された国の交付金を活用し、意欲ある補助金を拡大して支援を行ってきました。この国の交付金が終了することにより、平常時の件数を目標値として設定しています。

和田部会長

ほか、いかがでしょうか。

木村委員

資料1のP28(3)のKPI「創業支援対象者のうち創業者数」について、シンプルに「八尾市での創業者数」が良いと思うが、「創業支援対象者のうち」という条件が必要なのでしょうか。また、実績値に対して数値目標が低くなっている理由も教えてください。最後に細かいことですが、単位が「人」よりも「者」などのほうが良いのではないのでしょうか。

事務局

市内の創業者すべてを把握するのが困難であるため、商工会議所や金融機関と連携して作成している創業支援計画に基づいて支援を行った件数であれば把握できるということで指標設定しています。

目標値の根拠について、国に創業支援計画の改定版を認定申請しているところで、その計画

の中で創業者数の目標値を 163 人としていることと整合性を図ったうえでの目標設定ですが、実績値より低い数値目標になっていることについては担当所属に確認します。
指標の単位についても担当所属と調整してまいります。

和田部会長

ありがとうございました。
ほか、いかがでしょうか。

谷水委員

資料 1 の P32 の KPI「観光ウェブサイトアクセス数」の観光ウェブサイトは、観光協会のホームページのことでしょうか。

事務局

観光・文化財課にて R5 年度に整備したオンライン観光サイトのことを指しています。

谷水委員

目標値の年間 12,000 回について、目標値が低いように感じますが、どのような根拠で設定したのでしょうか。

事務局

今年 8 月までの実績値を基に算出しています。

谷水委員

年間 12,000 回であれば達成はそれほど難しくないのではと思いますが、「コストをかけてでももっと増やそうとする」とかいう考えはありませんでしょうか？

事務局

今年度は外部事業者に委託して本サイトの周知に取り組んでいるところです。

谷水委員

わかりました。
資料 1 の P32 の KPI「インスタグラムフォロワー数」について、他の SNS の活用状況について教えてください。

事務局

公式 SNS として、インスタグラムの他に X やフェイスブック等も活用しています。

谷水委員

資料1のP33に記載の「映画のまち・やお」について、八尾市のこういった点が映画のまちなのでしょうか。

事務局

八尾市フィルムコミッションを設立し、ロケ地として誘致することで、映像を通じて八尾の魅力を全国に発信していく取組を行っているところです。

谷水委員

最後に、八尾空港を活用して空飛ぶクルマ関連の取組を推進していこうという予定はあるのでしょうか。

事務局

八尾空港を市の魅力として活用できないか検討しています。その一つの方策として空飛ぶクルマの拠点として活用できないかということに関係機関と協議を行っています。

和田部会長

ありがとうございました。

先ほどのインスタグラムや他のSNSの活用についてご質問がありましたが、指標としてインスタグラムのフォロワー数を設定しているのは、八尾市が最も力を入れているSNSがインスタグラムということでしょうか。

事務局

インスタグラムは、他のSNSと比べて画像や動画の投稿に特化しており、例えば外国人の方にも視覚的にわかりやすいという利点があると考えていますが、ご指摘をふまえて指標がどうあるべきかについては担当所属と調整してまいります。

和田部会長

八尾市はいろいろなツールを活用しているとのことだったので、効果的と思われるものはどんどん発信していけばよいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

吉田委員

資料1のP27の「立地制度活用による雇用人数」の指標について、対象は市外から市内への移転なのか、市内間での移転も含むのかどちらでしょうか。

事務局

市外から市内への移転と、市外転出の抑止も目的としているため、市内間での移転も対象としています。

吉田委員

その場合、雇用人数は単純に増加した数をカウントすることになるのか、市内間での移転で従業員がそのままスライドした場合はその数も含めるのでしょうか。

事務局

移転先でどれだけの人雇用されたかをカウントする指標となっているため、市内間での移転の場合はスライド分も含めるということになります。

和田部会長

吉田委員から重要なご指摘がありましたが、スライド分も含めるとなると効果が見えにくくなると思いますが、再検討の余地はありますか。

事務局

担当所属と調整のうえ、新規に創出された雇用人数を測ることができるか調整してまいります。

上木委員

資料1のP33に記載の「八尾空港西側跡地における、にぎわいや地域の活力と元気を引き出す「複合機能都市拠点」の形成」について、個人的に興味があるので、現状の進捗状況について可能な範囲で教えてください。また、「ゼロカーボンシティやおの推進」に関して八尾市が取り組んでいることを教えてください。

事務局

八尾空港西側跡地は、大阪メトロ八尾南駅北側にある約9ヘクタールの国有地です。土地所有者は国ですが、八尾市や大阪市等の関係機関と協議のうえ、両市のまちづくりに配慮した土地利用がされるよう取り組んでいるところです。

ゼロカーボンシティにかかる市の取組について、R5年から6年間で環境省の重点対策加速化交付金を活用して、市民の方々や事業者への太陽光発電設置や給湯器設置に対する補助制度の創設や、公共施設には太陽光発電設置や、学習プラザをZEB化改修し、モデル施設として整備します。また、ゼロカーボンシティやおの推進協議会を設立し、事業者や団体と連携して脱炭素型まちづくりの実現に向けて取り組んでいます。

八尾市水道局では公民連携手法を活用した小水力発電事業を行っています。水道水を供給

する過程で発生する水の流れを利用して発電し、その電気を売電するという仕組みです。

和田部会長

市民委員の皆様はこういった取組はご存知でしたでしょうか。またはこういったところをもっと伸ばしていってほしいというようなことがあればご発言願います。

古河委員

基本目標6で「住みつづけたい」という目標が掲げられていますが、町会運営について、町会役員に初めて選ばれたが、高齢化による担い手不足というものを感じています。町会には加入するが役員は担えない人が多く、比較的若い人が役員を兼任する状況になっています。町会運営に対して市から補助金制度などで支援してもらえたらいいなと思います。

もう一点は「映画のまち・やお」について、雨で中止になりましたが、以前にリノアスの屋上で映画の上映会が企画されました。映画のまちをめざすのであれば、八尾市民を対象にした上映会など、八尾市民であることが特権となるようなイベントがあればいいなと思いました。

事務局

町会運営について、町会の高齢化というのは共通の課題となっています。加入率の減少傾向が続いている中での負担軽減策としましては、例えば市から町会への依頼事項を減らしていくといった取組を進めています。補助金については、直接的な町会負担軽減ではないかもしれませんが、校区まちづくり協議会に対しての交付金制度はありますので、そういった制度周知にも努めていきたいと考えています。

また、町会運営の支援という観点では、総合戦略上は基本目標1（1）地域特性をふまえたまちづくり に位置付けております。

事務局

映画のまちの取組としては、市民ボランティアの方々がエキストラとして出演された映画の上映会を昨年度実施しました。今年度も2月か3月に開催を予定しています。

和田部会長

ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。

和泉副部会長

資料1のP30に「ものづくりをはじめ、歴史・文化等の八尾の様々な魅力に触れる観光客でまちがにぎわい、地域経済が活性化し、市民・地域・企業等の活動・活躍が活発になり地

域が活気であふれています。」との記載があるが、P33の主な取り組みで「ものづくり」という表現を用いた記載があったほうがいいと思います。例えば、観光という文脈でものづくりを考えていくべきではないかと。

和田部会長

ただいまのご提案について、事務局は参考にしてください。

皆様ありがとうございました。それでは、様々なご意見が出ましたが、今後、第2期八尾市総合戦略 後期戦略を固めていくにあたり、どのような手続きになるのでしょうか。事務局からご説明いただけますか。

事務局

後期戦略策定に向けた総合戦略部会の開催は本日が最後となります。

本日のご意見を踏まえた修正や、最終的な整理をしたうえで、12月23日から約1ヶ月間のパブリックコメント（市民意見提出制度）を実施します。パブリックコメントでお示しする行政素案につきましては、今後、部会長、副部会長と事務局とで最終調整をさせていただければと考えております。

なお、パブリックコメント実施の際には部会委員の皆様にご案内させていただきます。

また、パブリックコメントにより提出された市民意見によって、よほど大きな変更が生じない限りは、市において修正対応等をしたうえで完成させ、市議会へ報告していくことを想定しています。

以上です。

3. 今後の地方創生に資する取り組み

和田部会長

それでは、次第の3. 今後の地方創生に資する取り組みについて、事務局、ご説明をお願いします。

（資料3、資料4説明）

和田部会長

ただいま、事務局より2025年大阪・関西万博に関連して2件一括で説明がありました。来年はいよいよ万博開催の年となっております。直接的に万博に参画する取り組み、また、間接的に万博を契機として八尾市への波及効果や誘客を目指す取り組みを考えておられるとのことでしたが、これらの取り組みについて、委員の皆様それぞれのお立場による独自の取り組みの提案や、市を含めた各機関の連携による取り組みの提案、より一層事業効果が高まる手法についてのご提案など、各委員より自由な発想で、ご意見をいただきたいと思いま

す。ご意見等あれば、挙手願います。

和泉副部長

まず資料3について、由義寺跡をどのように行っていくのか教えてください。

また資料4について、万博会場でものづくりの情報発信を行い、その後に八尾市を訪れた方がものづくりにどのように触れ合うことができるのか、お考えがあれば教えてください。

黒木委員

今のご質問に関連して、万博に関する部分について少し情報提供をさせていただきます。

日本国際博覧会協会が Co-Design Challenge プログラムというものを企画されています。

全国からものづくりの産地の募集を行い、11カ所採択されました。その中に八尾市の企業も入っており、その企業が端材を使用して製作したイス等を万博会場で什器として設置します。ここで採択された全国の産地を万博協会が巡るツアーを造成し、万博来場者を誘客する仕組みが計画されているところです。

事務局

由義寺跡の整備について、現在6次調査まで行ったところです。調査の過程でこういった発見があったのかを来場者に知っていただくために、地層部分を保存、保管することで体感できるようにと考えています。

資料3に記載している体験型観光プランを通じて、高安千塚古墳群の中には古墳の中に入れるところもあり、「石室体験ツアー」と題してモニターツアーも実施しますので、文化財を保存するだけでなく、活用できるような取組を進めていきたいと考えています。

事務局

八尾市へ来訪した人がどのようなものづくりの体験をできるかということについて、ものづくり関連で万博出展を計画しているものが大きく3つあります。1つは大阪ヘルスケアパビリオンに市内のものづくり企業13社が会場での発信方法について検討を進められています。2つ目は大阪ウィークの中で、ものづくりワークショップを考えています。来場者に八尾のものづくりの技術の高さを感じてもらえるような内容を検討しています。3つ目は、八尾のものづくりの魅力を知ってもらうために、八尾の若手経営者によるトークショーを検討しています。また、大阪ヘルスケアパビリオン出展とは別の枠組みで、市内企業8社と大阪産業局や金融機関と連携し、ものづくりの技術力の発信も企画されています。

また先月には、ファクトリズムというものづくりの現場を一般の方々に見てもらうイベントが開催されました。これは八尾市だけでなく、堺市や門真市等のものづくり企業も参加しています。万博会場で八尾のものづくりについて興味を持った方を、こういったイベントに誘客することを検討しています。

和泉副部長

大変良い取組だと思います。実際に現場でものづくりに触れてもらうということは重要なことだと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

和田部会長

ほか、いかがでしょうか。

坂口委員

資料3に八尾の地域資源の例として河内音頭の記載がありますが、私が子どもの頃は身近なところで盆踊り大会があり、踊れる人は多かったように思いますが、今の子どもたちはそうではないのかなと感じています。

枝豆や河内木綿の生産の経験がありますが、八尾の農家も高齢化が進んでおり、出荷まで難しいという声も聞いています。八尾といえば、河内音頭、枝豆、葉ゴボウというイメージはありますが、生活の中で身近に感じられなくなっているような気がします。そういった伝統や特産品をどのようにアピールしていくかが重要だと思います。

質問ですが、高安千塚古墳群は雑草が生い茂っていた印象があります。また、古墳が点在しているのでそれなりの距離を歩かなければいけないと思いますが、遊歩道や休憩所の整備等の予定はありますか。

事務局

ご指摘の通り、高安千塚古墳群は古墳が点在していますが、現在は計画的に公有化を進めているところです。いわゆる地権者からの買取です。整備までには時間がかかりますが、公有化を少しずつでも進めることで、文化財の保存も進めていきたいと考えています。

和田部会長

ありがとうございました。

川野委員、いかがでしょうか。

川野委員

資料1のP28(3)のKPIに「創業支援者数のうち創業者数」が追加されていますが、これについては私も意見を申し上げたことがあり、それが反映されてうれしく思います。ただし、他の委員からもご意見があったように、事業承継の相談が多い中でM&Aにもいろいろな形態があり、創業に近い場合もあることや、中小企業サポートセンターの相談のうち、M&Aに関する相談件数を把握することは可能だと思いますので、何らかM&Aに係る内容を追記してもらえたらと思います。

中小企業支援のメニューは非常に多いので、ニーズの高いメニューに絞って支援するということでいうと、創業支援や事業承継になると思います。

また、古河委員からご指摘のあった町会のなり手不足について、創業者や商業店舗はその地域と密接に関わっていることが多いので、例えば町会の役員になってもらうとお店のお客さんも増えますよといった動機づけができると、まちの活性化につながると思います。

また、公民連携という考え方が市民には浸透していないと思われるので、そういった手法も活用して取り組んでもらえたらと思います。

和田部会長

ありがとうございます。

松本委員、いかがでしょうか。

松本委員

皆様のお話をお伺いして、まちのブランディングはなかなか難しいことだと感じています。例えば古墳を活用するとしても、古墳に興味のない人には届かないし、万人受けという点で考えるとなかなか難しいと感じています。

資料1のP24の指標で「障がい者雇用率の達成企業割合」を設定されていますが、今年の4月に障がい者の法定雇用率が引き上げられ、令和8年の7月にも引き上げが予定されています。雇用率を今後飛躍的に向上させることが難しい中で、ハローワークで雇用率未達成の企業への指導等を行っており、今年も指導件数が増加していますので、そういった状況を踏まえて現実的な目標値を設定されてはいかがかと思いました。

和田部会長

貴重なご意見ありがとうございます。

4. その他

それでは、次第の4. その他として、事務局、ご説明をお願いします。

(資料5説明)

和田部会長

ただいま、事務局より今後のスケジュールについて説明がありました。

事務局の説明や後期戦略(案)に対して、ご意見やご質問等あれば挙手をお願いいたします。それでは、以上をもちまして、議事はすべて終了いたしましたので、事務局に議事進行をお返しします。

事務局

皆様ありがとうございました。

皆様のご見識に基づき、活発にご意見交換いただき、感謝申し上げます。

本日の内容を踏まえ、今後の本市における地方創生・総合戦略の推進に活かしてまいります。また、次回の会議につきましては、先ほどの説明にもありました通り、2月頃に全体会の開催を予定しております。日程等の詳細につきましては、決まり次第、別途ご案内いたします。それでは、閉会にあたりまして、政策企画部長 山原よりご挨拶申し上げます。

山原政策企画部長

閉会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、八尾市総合計画審議会 第4回総合戦略部会にご出席いただき、長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。

本日は八尾市第2期総合戦略 後期戦略についてご議論いただくとともに、今後の地方創生に資する取組についてもご議論いただいたところです。

石破総理からは人口減少問題に対応するため、地方創生に力を入れて取り組むという発言もございました。八尾市としましても、国の動きを注視しながらしっかりと対応していきたいと考えています。

今後は、2月に審議会からの答申をいただくべく、12月23日からパブリックコメントを実施してまいりたいと考えております。

委員の皆様には引き続き、八尾市政へのご支援、ご協力をお願い申し上げまして、簡単ではございますが閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。